

関宮町で採集されたミヤマクワガタ雌雄型

谷角素彦

1992年の夏は、各地でクマゼミやミヤマクワガタの雌雄型が採集され、テレビや新聞を賑わした。ミヤマクワガタについては、茨城県で採集された個体の形態と行動が報告されている(林, 1993)。兵庫県でも本種の雌雄型が見つかったので、報告する。

《データ》

ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus* 雌雄型, 兵庫県養父郡関宮町葛畑,
1992-VIII-16, 西村勉採集

この個体は、採集者の西村氏より但馬自然史研究所の本庄四郎氏に届けられ、最終的に筆者が預かることになったものである。1992年8月19日付の神戸新聞に掲載されたのが、本個体である。

左右で完全に二分される雌雄型ではなく、雌の特徴の占める部分が多い個体である。体長(大あごを除く)は29mmで、かなり小型。体の右半分は雌、左半分のうち頭部は雄、前胸背板・上翅の会合線寄りには雌、側縁寄りには雄の特徴が現れている。左大あごは雄の原歯型で、下方に曲がった奇形。左触角・小あごひげも雄の特徴が現れ、右側(雌)より長い。各肢も左側が長く、左右アンバランス。このためまっすぐ歩行することが困難で、軌跡は



右に弧を描いてしまう。やや不活発だったものの、通常の個体と比べてその他の行動で際立った差異は認められなかった。行動を観察するため飼育ケースに入れて餌を与えていたところ、9月下旬まで生存した。

参考文献

林 長閑 (1993) ミヤマクワガタ雌雄型の形態と行動, 月刊むし274:4-5.